



—進路だより第5号—

フロンティア

富山県立高岡高等支援学校進路指導部
令和4年2月28日発行

伝える力

教頭 松 保 子

本校生徒の目標である卒業後の企業等への就労に向け、大変重要な意味をもつ就業体験について、コロナ禍でもより安全、安心な体験となるよう、富山県PCR等検査無料化事業等も活用しながら取り組みました。1月の就業体験直前に富山アラートが発令されましたが、4月からの就職先となる企業と相談し、3学年は実施することができました。残念ながら1学年は直前の感染拡大により、生徒、家族、体験先の安全を最優先し、来年度に延期としました。まだまだ収束の兆しが見えない中ではありますが、生徒の自己理解、自己選択、自己決定のプロセスを大切に、3年間で7回就業体験を工夫しながら実施していきたいと考えています。

さて、今年度実施した就業体験の評価から、コミュニケーションに関する課題が多く聞かれました。相手に伝わる声で挨拶することはもちろん、体験先の従業員の方から問われたことに対する意思表示、自分が今どの段階まで作業を進めたかなどの説明を、単語でなくより伝わりやすい言い方で話せる力を高めていく必要があります。それは生徒の課題であると同時に、日々の指導に当たる私たち教職員の課題でもあり指導の工夫の必要性を痛感しています。つい、転ばぬ先の杖を持たせてはいないか。転んで立ち上がるのを最後まで見届け、自分の言葉で振り返らせているか。ある保護者から、「気付けば本人が話さなくても生活できていた家庭の現状を反省し、話さざるを得ない状況づくりをしている」とのお話を伺いました。生徒の伝える力は、伝えなければ進めない状況と、いろいろな人と話す機会が高まるものと考えます。

昨年末、2学年行事「職場見学」で、本校6期生が就職した二つの職場を訪問しました。その際、卒業生が後輩に向けて話してくれた中に、「分からないことやミスしたことを、自分から報告できるようになり、ストレスなく仕事ができるようになった」「自分から話し掛けることで人間関係ができ、困った時に助けてもらえる」との言葉がありました。心がつながり、円滑な人間関係で働くための入り口は、やはり自分から伝えることにあり、働く現場で実感した卒業生から改めて学ぶ機会となりました。



◇就労支援ネットワーク構築委員会を開催しました

2月9日に第2回就労支援ネットワーク構築委員会を開催しました。企業や関係機関の方4名、保護者代表で2名、教職員10名が集い、学校での進路指導の取組を報告したり、働くために必要なコミュニケーション能力について協議したりしました。関係機関の方からのご意見を紹介します。

- ・会社として、①人の話に耳を傾ける ②相手ではなく自分が変わる ③自分の成長が相手の成長につながる、を掲げて日々取り組んでいる（企業）
- ・上下関係が壁になることがある。従業員には、上ではなく下を見て仕事をするよう伝えている。（企業）
- ・感謝や謝罪を素直に言う、まとめて話すことができるように普段から練習をしてほしい。困っていることや分からないことを、知らない人の中でも表現できることが大切である。（障害者就業・生活支援センター）
- ・①体調管理 ②生活リズム ③挨拶、返事等のコミュニケーション力が必要である。職場はいつも楽しいわけではないので、負の感情でも仕事がこなせるようになってほしい。（ハローワーク）

働くためには、自分から発信できる力をつけることが必要だと改めて感じました。

◇進路学習会～就労支援セミナー～



2月22日（火）に、労働局主催の就労支援セミナーを行いました。
密を避けるため、3学年の生徒は会議室で、1・2学年の生徒はオンラインによる各教室での参加になりました。

富山労働局から、地域における障害者雇用の現状として、障害者の雇用率や障害別・職業就職状況等の説明があり、その後、講話がありました。

講話1 「働く力を育てる～働き続けるために～」

高岡障害者就業・生活支援センター 主任就業支援ワーカー 井出 好美 様

- どうして働くのか？
 - ・自分が成長するため ・心と体の健康のため ・経済的自立のため
- 働くために必要なこととして返事や挨拶、報告や連絡などがあるが、分からない時に「何が分からないか」「どこができないのか」を自分の言葉で伝えることが必要。上司の言葉を素直に聞くことができる姿勢も必要。
- 在学中に、基本的な生活習慣の確立などできることがあるが、他者との交流を通して「待つ力」「我慢する力」「約束を守る力」「断る力」を身に付けてほしい。
- 失敗は経験になる。この経験を通して、挑戦していく前向きな考え方を身に付けてほしい。誰かに自分の気持ちを発信し、相談できることも大切。

講話2 「働く」ために

アルビスクリーンサポート株式会社 取締役社長 安田 泰弘 様

- 就業体験は「働く」何かを見つける貴重な体験なので、目標をもって取り組んでほしい。
- 自分の仕事に誇りをもつ、仕事に目標をもつことが、会社での定着につながり、仕事への意欲向上になる。
- 会社が大切にしているのは、①自分から挨拶をすること ②社会、会社のルールを守ること ③仲間を大切にすること。これらを忘れないでほしい。
- 在学中に、働く準備をしてほしい。規則正しい生活を心掛け、仕事を休まない健康な体を作る。相手を気持ちよくさせる元気な挨拶、清潔な身だしなみができるようになってほしい。

感染対策のため、生徒のみの参加になりましたが、卒業後の就労を目指す本校にとって、とても有意義な研修になりました。

<生徒の感想>

- 自分の苦手なこと、得意なことをしっかり理解することが大事だと分かりました。
- 自分のことを理解すること、働くことを考える話を参考に学校生活でも活かしていきたいです。
- 報告、連絡、相談を今後の作業学習でしっかりできるようになりたいです。
- どこの職場でも挨拶は大事ということが分かりました。
- 就職するためのスキルが分かってよかった。学校の作業学習でも頑張りたいです。
- 会社は、労働力を提供し、給料をもらうので、聞いたことをしっかりやりたいです。
- 社会人は責任が重くなることが分かりました。
- どうやって苦手な人と接していけばいいのか分かった。学校生活を楽しみ、一歩ずつ前に進んでいこうと思いました。